氏名	西 村 文 夫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 117 号
学位授与の日付	昭和40年6月1日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	**珪肺患者の骨髄造血機能に関する研究**
論文審査委員	教授 平 木 潔　教授 小 坂 淳 夫　教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 要 旨

遊離珪酸を体内に沈着し，肺機能障害を伴い，しばしば二次的赤血球増多症の傾向のみられる珪肺患者の骨髄造血機能を検索する目的で，胸骨骨髄穿刺を行い，主として組織培養法により，赤血球系，白血球系，栓球系の造血機能を検討した。

第1編：骨髄細胞浮遊廻転培養とジデロブラストグラムによれば，珪肺の進展に応じて赤血球造血機能の亢進の傾向がみられたが，珪肺の最も進展したものではむしろ低下の傾向を認めた。

第2編：臨床骨髄組織培養法により，増生面積，細胞密度，好中球遊走速度および墨粒貪喰能をみると，珪肺の進展とともに白血球造血機能はむしろ低下する傾向が認められた。

第3編：臨床骨髄組織培養法により，出現巨核数および運動能をみたが，珪肺の進展度による差を認めがたく，栓球造血機能に与える珪肺の影響は少いものと考えられる。

結論：珪肺患者の骨髄造血機能では赤血球造血機能の亢進と白血球造血機能のむしろ低下がみられた。

(3編共に昭和40年5月31日に発行　岡山医学会雑誌　第77巻5号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

西村文夫提出の「珪肺患者の骨髄造血機能に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

西村文夫は第1編において骨髄細胞浮遊廻転培養とシデロブラストグラムによれば，珪肺の進展に応じて赤血球造血機能の亢進の傾向がみられたが，珪肺の最も進展したものではむしろ低下の傾向を認め，第2編では臨床骨髄組織培養法により，増生面積細胞密度好中球遊走速度および墨粒貪喰能をみると，珪肺の進展とともに白血球系造血機能はむしろ低下する傾向が認められた。第3編において臨床骨髄組織培養法によって，出現巨核数および運動能をみたが，珪肺の進展度による差を認めがたく，栓球系造血機能に与える珪肺の影響は少いものと考えられると述べ珪肺患者の骨髄造血機能では赤血球系造血機能の亢進と白血球系造血機能のむしろ低下を観察したと結論した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。